

4 月 25 日（火）、第 3 回の委員会が開かれました。

1 科学技術、イノベーション推進の総合的な対策に関する件

- ・鶴保国務大臣（科学技術政策、宇宙政策、知的財産戦略及び情報通信技術（IT）政策担当）、義家文部科学副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

古 田 圭 一 君（自民）

- ・基礎研究の成果を早期に実用化する支援が重要であると考えているが、その手段としての科学技術イノベーション官民投資イニシアティブについて今後どのように具体化していくのか鶴保大臣に伺いたい。
- ・日本学術会議において、「軍事的安全保障に関する声明」が公表されているが、防衛装備庁の安全保障技術研究推進制度について、国民の理解をどのように得て同制度を利用した研究を進めていくのか伺いたい。

奥 水 恵 一 君（公明）

- ・ゲノムデータを活用したがん治療のイノベーションについて、がんを発現した遺伝子変異を特定した上で異常な遺伝子の発現を阻害又は抑制する薬の開発が必要になることを踏まえ、ゲノムの解析から創薬までの一連の過程について強力な研究開発体制を構築する必要があると考えるが、現状と今後について政府に伺いたい。
- ・科学技術立国実現のために、基礎研究から最終的な製品の開発及びその製品の収益による更なる投資の拡大までつながる、研究開発と製品開発の好循環を生み出す仕組みを構築する必要があると考えるが、鶴保大臣の見解を伺いたい。

鈴 木 義 弘 君（民進）

- ・大学改革について、制度改革やエビデンスなどの具体的な取組を外部に分かりやすく示す必要があると考えるが、鶴保大臣の見解を伺いたい。
- ・Nature Indexにおいて、我が国の論文数が相対的に減少するなど日本の科学力が低下していることが指摘されていることを踏まえ、論文数の低迷や若手研究者のポストが少ない状況を改善する方策について、鶴保大臣の見解を伺いたい。
- ・大学改革を実現するためには、競争に強い大学やシス

テムの構築のほか、学生にいかにか付加価値をつけて卒業させるかという点も重要であると考えているが、鶴保大臣の見解を伺いたい。

- ・個々の技術に通じたエンジニアのほかに、社会実装までこぎ着けることのできる研究であるか目利きのできるビジネスセンスのあるエンジニアが必要になると考えるが、国としてそのような人材の必要性をアピールしていくことについて鶴保大臣の見解を伺いたい。
- ・生命倫理は人間の生と死に関わる根幹的なものであり、生殖細胞に係る研究については国が基本的な考え方を示したうえで、国民的議論を主導していくべきであると考えているが、鶴保大臣の見解を伺いたい。

高 井 崇 志 君（民進）

- ・昨年成立した官民データ活用推進基本法に規定された「行政手続きのオンライン化原則」（第10条）、「データ流通における個人関与の仕組み」（第12条）、「情報システムの互換性確保・連携基盤の整備」（第15条）の取組状況について内閣官房に伺いたい。
- ・インターネットを介して物や資産などをシェアするシェアリングエコノミーの評価と課題について鶴保大臣はどのように考えるか、また、シェアリングエコノミー企業を内閣官房はどのように支援していくのか伺いたい。
- ・現在、紙媒体が前提となっている教科書のデジタル化に関する文部科学省の検討状況について伺いたい。
- ・日本のデジタルアーカイブは、他国に比べて貧弱である。欧州のEuropeanaなどと同程度のデジタルアーカイブを構築する必要があると考えるが、内閣府の取組及び鶴保大臣の認識について伺いたい。

真 島 省 三 君（共産）

- ・長崎大学におけるバイオセーフティレベル4（BSL-4）施設設置に関し、昨年11月の関係閣僚会議において長崎大学への支援など国の関与の決定がなされた

ところであるが、その際の地元住民の理解の状況について文部科学省に伺いたい。

- ・万が一最悪の事態が発生し、地元住民に感染症が発生した場合における長崎市の市民生活や観光への深刻な風評被害を想定しているか文部科学省に伺いたい。
- ・根源的な問題は住宅密集地に同施設を設置することであり、設置場所の議論に戻らないと進まないとする昨年11月の有識者会議での意見をどのように考えるか文部科学省に伺いたい。

伊 東 信 久君（維新）

- ・世界をリードする我が国の先進・先端医療について、現在の取組の状況を厚生労働省、文部科学省及び経済産業省に伺いたい。
- ・先進医療、がん治療及び再生医療に関し、基礎研究から治療・製薬等に結び付ける取組について鶴保大臣の見解を伺いたい。